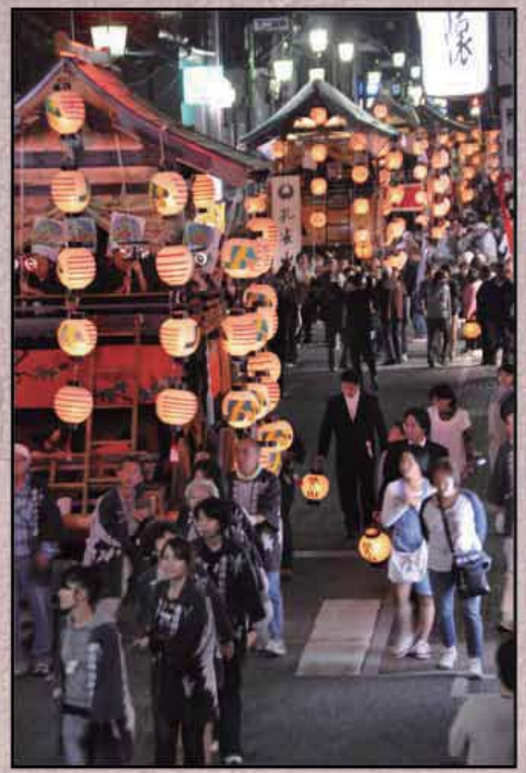
丹波篠山ロマン街道

祭礼の道 マップ



丹波篠山市

2020. 発刊

丹波篠山市 まちづくり部 地域計画課　景観室

〒669-2397　兵庫県丹波篠山市北新町 41

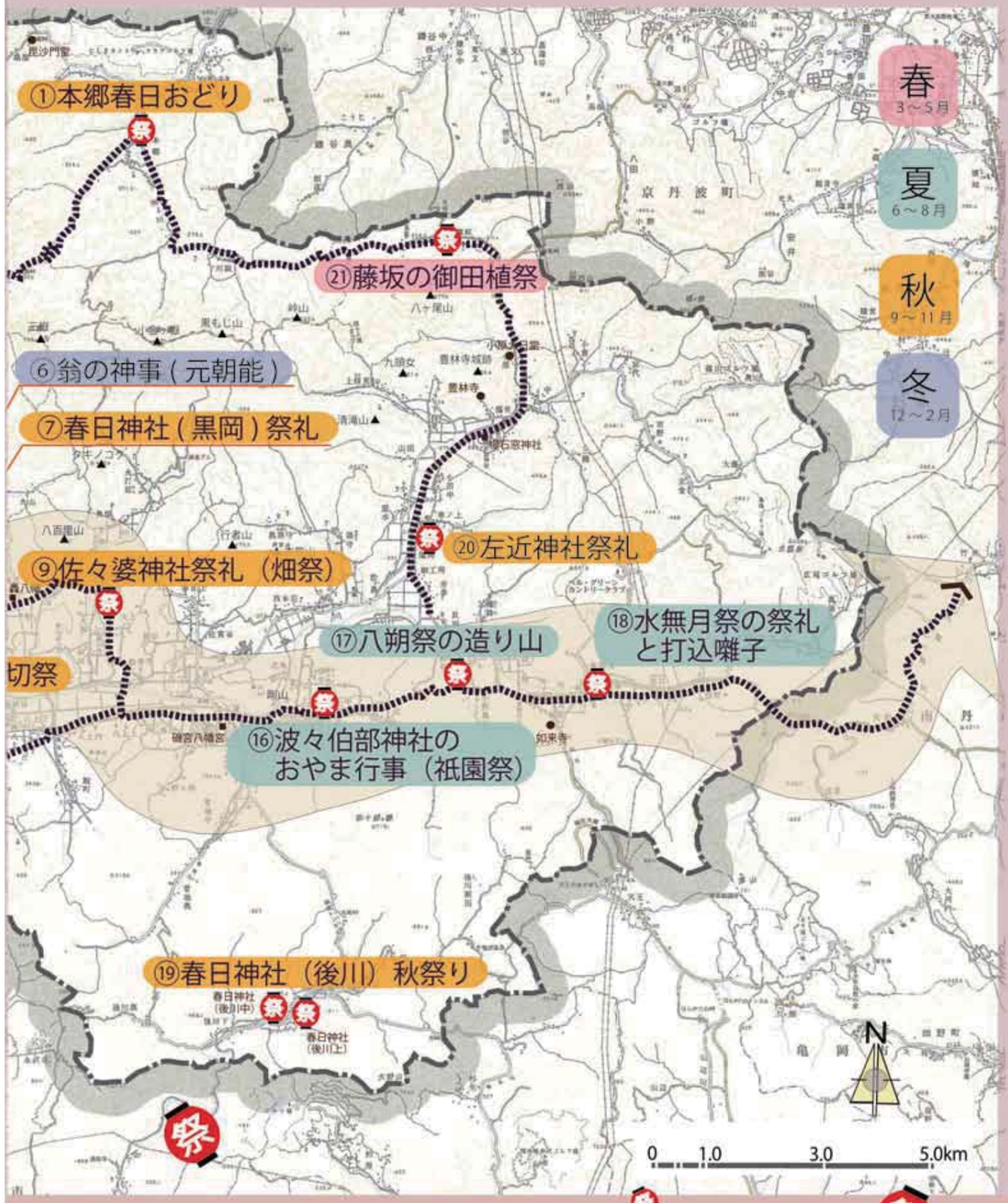
TEL：079-552-1118

http://www.city．sasayama.hyogo.jp/pc/group/keikan

編集協力：丹波篠山市教育委員会　文化財課

五穀豊穣を祈願する「春祭り」
虫害や風害を防ぎ、災厄を祓う「夏祭り」
神饌を供し直会を開き、神幸を行う新穀感謝の「秋祭り」
丹波篠山には農耕を母体とする四季折々の祭事が山里の田園風景の中に色濃く継承されています。
祭礼は、地域の人々の長年にわたる繰り返しによって「蓄積されてきた文化」でもあります。日々の暮らしによって継承されてきた丹波篠山の祭礼を是非ご覧ください。

※丹波篠山の祭礼について
民俗学者の柳田國男氏は、祭事を営む人とそれを司る神官によって行われる宗教的行為を「祭り」と呼び、それに直接関わりのない見物人が加わったものを「祭礼」と呼んでいます。丹波篠山は、街道等による人々の往来を通して京や上方の文化が伝わり、華やかな祭礼が近世に花開いています。
丹波篠山ロマン街道では、丹波篠山を代表する見ごたえのある「祭礼」を紹介しています。



丹波篠山「祭礼の道」

丹波篠山ロマン街道

祭

伝統を未来へ…
丹波篠山の祭礼

祭 ①本郷春日おどり

春日神社（本郷）

10月21日前後の日曜日

旧草山村の氏神である春日神社の祭礼に奉納される民俗芸能で、子どもたちが紺地の着物を肌脱ぎした長襦袢姿になって、境内に並べられた演台の上で品よく踊る。伝わっている曲目は、「鯉の滝登り」「豊年おどり」「兵庫くどき」「宰相頼朝さん」等18種が伝わり、持ち物の種類によって「手踊り」「御幣踊り」「扇子踊り」の3種類に分けられています。近世末に流行った「お陰踊り」との関連が考えられ、県内では類例がないことで注目されています。

祭 ②不動尊例祭（栗柄）

倶利伽羅不動尊（栗柄）

1月3日

落差４mの不動の滝の滝壺に祀られている石像の不動明王像は、倶利伽羅不動尊と呼ばれ、栗柄の地名の由来になったとされています。坂本にある福徳貴寺の縁起には、この滝壺に棲む竜女を成仏させたという「竜の昇天」伝説が残っています。このあたりは丹波大峰とも言われ、かつて三岳修験道の盛んな地でありました。不動尊例祭は毎年、年始めの１月３日に行われ、滝の上の広場で丹波大峯会による大護摩焚きと火渡りの儀式「火生三昧」が執り行われています。

秋に丹波篠山の盆地が霧の海に沈んだとき、一番先に霧が晴れるのは竜の昇天伝説の残る栗柄の地といわれています。

祭 ③川内多々奴比神社祭礼

10月第2土曜日　　川内多々奴比神社（下板井）

式内社川内多々奴比神社の縁起には、崇神天皇の御代、四道将軍丹波道主命がこの地に野陣を張り賊徒討伐に苦慮しているとき、白髪の翁が現れ、玉と剣を授け、その加護により平定できたのでここに宮地を営んだと書かれています。祭神に天照大御神と建速素盞嗚命を祀り、源頼光の太刀一振りが奉納されたのもこうした伝承に起因するもので、かつては200mにわたる松並木の馬場（参道）を有し、秋祭りには豪壮な流鏑馬が行われていました。現在は太鼓神輿に子ども神輿が加わり、一宮神社から地域一体を巡り本宮に奉納する渡御が継承されています。

祭 ④池尻神社人形狂言

池尻神社（町ノ田）

10月第2日曜日

池尻神社の秋祭りの際に奉納される人形狂言は、池尻神社の遷座百年を記念して、宝暦４年（1754）に奉納されたのが人形狂言のはじまりとされています。演目は宝暦３年に徳永村の庄屋であった中澤傳左衛門が台本を書いた「神変応護桜」のみとなっています。あらすじは神社に立ち寄った若者（八重垣）が、八岐大蛇の人身御供になりかかっていた娘（稲田姫）を助けるために八岐大蛇を退治するというものです。囃子は太鼓と拍子木のみで、地謡の調子が浄瑠璃調、謡曲調、説教節調などが混在しているところが特徴になっています。人形は５体あり、「じじ」と「ばば」は二人遣いで、「禰宜」、「八重垣」、「稲田姫」は三人遣いですが、胴串の特徴などから一人遣いの系統と考えられ、古浄瑠璃の特徴を残しています。なお、人形の頭は県の有形民俗文化財に指定されています。

祭 ⑤諏訪神社祭礼

諏訪神社（西岡屋）

9月第1土曜日・日曜日

諏訪神社は、天平勝宝（749～757）期に信濃国の諏訪大社のご分霊を飛び山のこの地に勧請したのが始まりとされています。ご祭神は建御名方神、八坂刀売神、八重事代主神で、当初は山の大杉を神木として祀っていたそうです。あるとき大蛇が鎮座地の飛び山を七巻半し、「安産さそう、五穀豊穣、武運長久」といったという伝承があります。地域の稲刈りと共にはじまる祭礼は、秋の収穫祭として丹波篠山では最も早く催されるもので、宵宮は奉納太鼓とともに始まり、舞台で様々な催しが行われています。本宮では、地域の人に見守られながら子ども神輿が地域を練り歩く、風景が見られます。

祭 ⑥翁の神事（元朝能）

春日神社（黒岡）

1月1日0時20分頃から

丹波篠山に新しい年の始まりを告げる元朝能「翁（おきな）」。毎年１月１日の0時20分頃から、春日神社能舞台で開かれます。丹波篠山の元朝能は、国内で最も早い演能として知られ、春の春日能、秋の丹波夜能（現在は休止中）とともに「丹波三大能」と呼ばれています。

近年、NHKの「ゆく年来る年」でも生中継され、多くの人の知るところとなりました。初詣をかねて伝統の「翁」を鑑賞し、新年のあいさつを交わし合う、いかにも丹波篠山らしい社交の場が演出されています。「翁」は猿楽に起源を持つといわれ、天下泰平、延命長寿、五穀豊饒などを祈って祝賀に披露される舞です。毎年、丹波猿楽の流れをくむ梅若家（観世流）が出演しています。

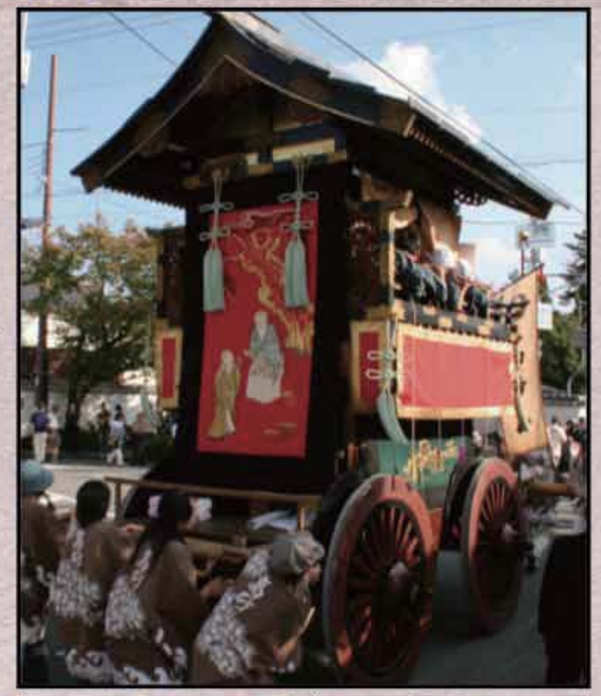
祭 ⑦春日神社（黒岡）祭礼

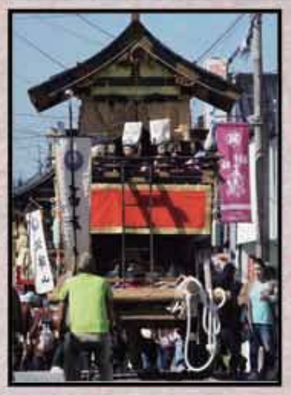
春日神社（黒岡）

10月第3土曜日・日曜日

丹波篠山市黒岡の春日神社は、貞観年間(859～877)に奈良の春日神社を篠山城の場所に勧請したと伝えられ、慶長14年(1609)の篠山城築城に伴い現在地に移されています。

春日神社の祭礼は、近世の城下町祭礼を継承し、神幸の渡御行列や鉾山の巡行、太鼓みこしの巡行に時代の変化が見られるものの、城下町祭礼の姿を現在もよく残しています。成立時期は江戸時代前期（17世紀中頃）と考えられ、特に鉾山は、京都の祇園祭の鉾の形態を導入し、その姿を現在までよく伝え、篠山藩内の農村部の祭礼にも影響を与えています。現在の祭礼も、神事と神幸、鉾山の巡行及び太鼓みこしの巡行から構成され、丹波篠山市内の祭礼の基盤を示すものとしても貴重な祭礼となっています。





祭 ⑧鱧切祭（はもきり）

前沢田・北沢田公民館（前沢田・北沢田）

10月第3土曜日

沢田八幡神社に伝わる秋の祭礼で、氏子は前沢田、北沢田、上河原町、下河原町の四集落ですが、鱧切祭は前沢田と北沢田で継承されています。収穫に感謝すると同時にこの地を開発した祖神（おやがみ）（氏神）に感謝する祭といわれています。伝承によると、昔沢田は沼沢地（しょうたくち）であり、村人は毎年、大蛇に長男（スッテンテン）と長女（御神酒持（おみきもち））を生贄（いけにえ）として出していましたが、ある年、神が現れ、大蛇が酔いつぶれたところを一刀両断にして退治したと伝えられています。鱧切祭は、この言い伝えを祭礼として再現したといわれ、祭礼の役には禰人（とうにん）の他、鱧切役、杖持（つえもち）（四天王）、招伴人（しょうばんにん）、スッテンテン、御神酒持（おみきもち）、猿田彦、踊子などがあります。以前は１０月１６日に禰家（とうや）で行われていましたが、現在は１０月第３土曜日に公民館で行われています。柳田国男の「日本の祭」にも取り上げられた全国的にも珍しい奇祭です。

祭 ⑨佐々婆神社祭礼（畑祭）（ささば）

佐々婆神社（畑宮）

10月第1土曜日・日曜日

宵宮には氏子の各集落から10基の山車と太鼓御輿（みこし）7基が出され、次々と宮入りし、境内を所狭しと練り歩き、華やかに祭礼がおこなわれます。本宮では神輿や山車の行列が延々と村々を練り歩き、御旅所の若宮への渡御があります。境内では流鏑馬（やぶさめ）の行事が行われ、境内の3カ所に設けた的を目がけて馬上から矢が射られる光景が見られます。佐々婆神社で流鏑馬が行われるようになったのは寛永２年（1625）の頃だと言われています。

祭 ⑩青山神社祭礼

青山神社（北新町）

4月第1土曜日

篠山藩主青山家の遠祖をまつる祭礼で、４月の第１土曜日（宵宮）と日曜日（本宮）に行われています。本宮は春日神社へ渡御の行列があり、御輿とともに鎧と薙刀などで扮した小学生たちが太鼓と法螺貝の合図で町内を練り歩きます。かつては武装した鳳鳴義塾（県立篠山鳳鳴高等学校の前身）生徒の前駆があったそうです。篠山城の歴史を偲ばせる民俗文化資産であり、近代以降から続く祭礼として重要なものとなっています。

なお、篠山城跡に位置する青山神社は、篠山藩主の青山家の旧恩を追慕する人たちの手によって青山家の遠祖青山忠俊公と青山家中興の藩主と称せられた青山忠裕公を御祭神として明治１５年（1882）５月に創建されたものです。

祭 ⑪二村神社(味間奥・味間南)秋季大祭

10月第2土曜日・日曜日

二村神社(味間奥)

二村神社は、古市見内の式内社二尊神社（現二村神社）の神輿を文明14年（1482）、味間村の御神体として祀ったもので、西古佐村（現神興谷）に一時安置したのち現在の字松本に社殿を築き遷座させています。安寧・五穀豊穣を願う秋の大祭では、宵宮で４基の曳山と６基の太鼓神輿が村々を練り歩き、勢ぞろいする本宮では御神酒頂戴、餅まきの神事と獅子舞（神楽）の奉納が行われています。

日限地蔵尊地蔵堂（古市）

祭 ⑫古市地蔵盆

8月２４日

江戸時代宿場町として急速に町場化した古市は、新興の町として商家が中心となり神仏を各地から勧請しています。その一つである古市の宗玄寺の境内にある地蔵堂の日限地蔵尊は、天保１４年（1843）７月旅籠・問屋を営んでいた横屋休兵衛が、隣宿場の播州吉川熊谷（現三木市吉川町富岡）に祀ってあった日限地蔵尊を古市に勧請したものです。毎年８月２４日に開催される古市地蔵盆は、子どものための祭というよりも大人を対象とした集落の祭礼として古市宿場町で唯一年に１度の集客イベントとして定着しています。縁日には四つの町組（上、中、下、横）が年番替りで制作する造り物（現在休止中）のほか、京都祇園祭の屏風祭同様に街道に面した町家の式台や座敷に美術品や調度品を飾り、灯篭や竹灯り、提灯等で街道筋全体を華やかに演出しています。

奉納される愛宕さんの松明

同時に開催されていた盆踊り（現在休止中）

古市地蔵盆　バトミントン用具を使った造り物

町家の屏風かざり

町家の屏風かざり

灯篭飾り

団扇をつかった造り物

町家の屏風かざり

町家の屏風かざり

（盆踊り、造り物は現在休止中）

祭 ⑬住吉神社（上小野原）の神舞（蛙踊り）

10月第１土曜日

住吉神社（今田町上小野原）

神舞は住吉神社祭礼の宵宮に奉納されます。以前は三つの宮座が主体となり奉納していましたが、現在は「神舞奉仕会」が奉納しています。踊りはいわゆる田楽で、惣田楽と「いずまい」と呼ばれる輪舞の２種類で構成され、締太鼓とビンザサラの演奏が交代するときに「カエロカエロ」と声をかけることから、別名「蛙踊り」とも呼ばれています。2種類の踊りのみで構成された単純な芸能ですが、鶴亀を染め抜いた紺の素袍と袴を着用した踊り手が舞い、中世の田楽の姿をよく留めている神舞とされています。

祭 ⑭住吉神社（木津）の田楽（田楽踊り）

１０月中旬（現在休止中）　　住吉神社（木津）

住吉神社（木津）の舞堂で開催される祭礼で、奉納される田楽には「幣かたげ」「ササラ」「太鼓」「笛」の役があり、浅葱色の裃、仙台平の袴、白足袋の装束を付けた踊り子が、「巫女の舞」「田楽」「跳び（トートイチ）」を順番に舞います。この田楽についての由来は史料や伝承がないため定かではありませんが、天明4年（1784）に書かれた「宮当規式定書」には「踊ならし」の記載があることから、この時期にはすでに奉納されていたことが明らかとなっています。

祭 ⑮二村神社（真南条中）祭礼

二村神社（真南条中）

10月第1土曜日・日曜日

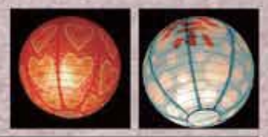
真南条の秋祭りは、「真南条の喧嘩祭り」といわれ、四人の子ども乗せた太鼓神輿がぶつかり合う勇壮な祭りでした。二村神社は、室町時代古市の見内（神内）の式内社二尊神社（現二村神社）の御神像一体を頭屋間の座争いの後、一時的に岩屋に祀ります。百数十年後の元亀元年（1570）に村人総出で山裾を切り開き参道を造り、現在の地に移したとされています。そうした由来が「喧嘩祭り」で継承されてきたと思われます。現在は少子化に伴い子ども神輿も休止され、宵宮の提灯飾りと本宮の餅まき等の神事が行われています。

祭 ⑯波々伯部神社のおやま行事（祇園祭）

8月第１土曜日・日曜日　　波々伯部神社（宮ノ前）

波々伯部神社の例祭（祇園祭）は、３年に一度おやまの神事が奉納されます。キウリヤマ（おやま）の上でデコノボウと呼ばれる操り人形による人形戯が奉納されます。中世的な人形戯の形態が伝承されており、おやま行事の変遷を考える上で大変重要であることから、平成７年に県の無形民俗文化財に指定されています。また、例祭で毎年奉納されるサンシャ（山車）の行事と合わせ、「波々伯部神社のおやま行事」として平成17年に国の無形民俗文化財に選択されています。波々伯部神社は、氏子８ヶ村（上宿、井ノ上、北嶋、宮ノ前、畑市、畑井、小中、辻）が、中世には波々伯部保という京都祇園社の社領であったことから、荘園鎮守の神として勧請されたと考えられています。例祭は、毎年８月第１土・日曜日に行われており、氏子の8集落から8基のサンシャが奉納されます。祇園祭の３年ごとにサンシャの外にキウリヤマと呼ばれる２基の山車が奉納されています。キウリヤマの上部は青竹で組まれた枠組みに青と白の幕が張られ、デコノボウを奉納する舞台となります。演目は「田原の藤太」、「愛宕山」などがあります。デコノボウは６体１組で２組１２体あり、頭と胴串だけの素朴な作りですが、「波々伯部神社の祭礼操り人形」として県の有形民俗文化財に指定されています。

祭 ⑰八朔祭の造り山



8月31日・9月1日　　熊野新宮神社（二之坪）

熊野新宮神社の宵宮に、造り物を乗せた屋台が宮入りします。これは氏子である7つの集落がそれぞれ趣向を凝らして仕立てた造り山で、祭礼の見所となっています。もとは収穫された野菜を神前に供えていた風習が、延宝年間（1673～1681）頃より造り物に変わり、それを屋台に乗せて神社に引き入れるようになったといわれています。京都の祇園祭の山鉾を模して飾りつけた山車で、五穀豊穣を祈る祭礼として8月31日に執り行なわれ、季節の風物詩となっています。。

祭 ⑱水無月祭の祭礼と打込囃子

7月最終金曜日・土曜日　　住吉神社（川原）

川原の住吉神社は、永保元年（1081）に、住吉大社の分霊を勧請したことが始まりと伝えられています。氏子は川原、本明谷、福住上、福住中、福住下、うと木、安田の７集落で、もとは旧暦６月晦日の祭礼でしたが、現在は、７月最終金曜日に宵宮が、土曜日に本宮が行われています。祭礼では氏子集落による山車の巡行が行われます。山車の創建は江戸時代の後期で、かつては６基の山車がありましたが、現在は５基の山車となっています。水無月祭では道中囃子と打込囃子という２種類の囃子が行われます。打込囃子は、明治30年代に福住村の遠山宗九郎が各集落の山車ごとに作詞作曲したことが始まりであると伝えられており、宮入後に境内で奉納される囃子で、締太鼓、小鼓、三味線、胡弓、笛などの楽器で演奏されます。打込囃子の競演が祭礼の大きな見どころの一つとなっています。

祭 ⑲春日神社（後川）秋祭り

10月第４日曜日　　後川上春日神社・後川中春日神社（後川上・後川中）

後川上春日神社

後川中春日神社

後川上の春日神社は天福元年（1233）原谷の奥の地に祀られていましたが、参拝が不便なため、近世になり現在の中村の地に移されました。後川中の春日神社と共に殿下渡領として祀られたもので、後川上の春日神社は近世の雨乞い神事と結びついて竜神春日社とも呼称されています。

同日で行われる五穀豊穣、収穫感謝を祈願する秋祭りは、後川上の春日神社では子ども神輿の練り歩きと祈願祭（直会）が行われ、後川中では、祈願祭として餅まき等の神事が行われています。

左近神社（草ノ上）

祭 ⑳左近神社祭礼

１０月第2日曜日

左近神社の創建は古く、草ノ上村丁ノ田ノ坪の古宮から遷座したと伝わっています。秋の例祭は毎年１０月６・７日となっていましたが、近年は土日祝祭日に変わっています。氏子である草ノ上、細工所、塩岡、井串、貝田、垂水、向井の７集落がそれぞれ山車を所有しています。当村である草ノ上の山車は明治27年（1894）、草ノ上の大工、高橋百之助氏が祇園の山車を見本に作ったと言われています。７基の山車のうち、５基は「みこし山」と呼ばれており、太鼓神輿に４つの車輪が付いたこの辺りでは珍しい山車です。

祭 ㉑藤坂の御田植祭

春日神社（藤坂）

5月10日前後の日曜日

藤坂の春日神社舞堂で行われる御田植祭は、豊作を願う伝統行事です。まず、３人が面を着けて百姓や牛に扮し、神職役の口上に合わせて、木の鋤などで田ならしを行います。最後には田植え役の２人が藤坂地区内にある県指定天然記念物の大カツラを株分けした境内のカツラの枝を稲の苗に見立て、手植えの仕草で舞堂の床に次々と並べていきます。これは生命力が強く豊作の象徴である大カツラのように稲が大きく育つようにとの願いが込められていることによるものです。

祭

㉒デカンショ祭（デカンショ節）

篠山城跡（北新町）

8月15・16日

丹波篠山の民謡「デカンショ節」は、江戸時代から篠山一帯で親しまれていた「ミツ節」という盆踊り唄が元唄と言われています。「盆のお月さんはまるこてまるい……」の唄が今日のデカンショ節の中で唄われるのはその名残です。明治時代中期になると、当時ミツ節の別名として篠山城下で唄われた「デッコンショ節」が、篠山出身の学生によって東京の学生仲間へ持ち込まれ愛唱されるようになり、学生の間で流行すると、本来の素朴なメロディにバンカラな風格が加味され、囃しことばも「デッカンショ」に変形したようです。それが篠山へ里帰りし、今のデカンショ節として唄い継がれています。毎年開催されるデカンショ祭は篠山城跡に据えられた大型櫓の上でデカンショ節が演奏され、その周囲を多くの人が踊り、櫓を囲んでいます。

丹波篠山市の主要な祭礼一覧

［丹波篠山市歴史文化基本構想（H23）から作成］

		春	夏	秋	冬
中世の痕跡残す祭礼	荘園の総社の祭礼（広域の祭祀圏を有する祭）		⑯波々伯部神社おやま（デコノボウ）		
	宮座形式の田楽等の祭礼（お頭、頭屋制）	㉑藤坂御田植祭		⑬住吉神舞（蛙踊り） ⑭木津住吉神社の田楽（田楽踊り） ⑧饅切祭	
近世の祭礼	曳山・神輿両方を伴う祭礼		⑰八朔祭の造り山	⑦黒岡春日神社祭礼 ⑨佐々婆神社祭礼 ⑪味間二村神社祭礼 ⑮真南条二村神社祭礼	
	曳山を伴う祭（鉾山、ダンジリ、チンチキ山、山車等）	・日吉神社祭礼（下原山）	⑱水無月祭祭礼と打込囃子 ・大芋まつり（藤坂春日神社、小原梅田神社）	⑳左近神社祭礼 ①本郷春日神社祭礼（本郷春日おとり） ・栗柄春日神社祭礼 ・油井大歳神社祭礼	
	神輿等担ぐ形式の祭（太鼓山、太鼓神輿、神輿）			③川内多々奴比神社祭礼 ⑤諏訪神社祭礼 ・熊按神社祭礼（春日江） ・泉八幡神社 ・大山愛宕神社祭礼（大山下） ・（追入、大山宮） ・吹新春日神社 ・熊鷹稲荷神社祭礼（弁天） ・当野大歳神社 ⑲春日神社（後川）秋祭り	
	造りものを伴う祭	・日吉神社祭礼（下原山）	⑫古市地蔵盆 ⑱八朔祭の造り山 ・大芋まつり（藤坂住吉神社祭礼）		
	能や人形浄瑠璃等芸能を伴うもの			④池尻神社人形狂言 ①本郷春日おどり	⑥翁神事
近代以降の祭礼	神幸行列（巡行）主体の例祭	⑩青山神社祭礼（小学生武者行列）			
	盆踊り		㉒デカンショ祭		
	その他		後川稲荷神社夏祭り		②不動尊例祭（栗柄）

※太字は丹波篠山ロマン街道で取り上げたもの